



SSH 千葉県立柏高等学校

～2020年は創立50周年～



ケンカシだより 第7号

令和2年3月17日発行

千葉県教育委員会の方針に従い、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、ケンカシは、3月4日（水）から3月24日（火）までの期間を臨時休業としております。

私たち、がんばっています

【千葉県小・中・高書き初め展覧会 優秀賞受賞】

2年4組の阿部湖心さんが、「千葉県小・中・高書き初め展覧会」において、千葉日報社賞を受賞しました。彼女は、小学校のときから中学校まで、書道教室に通っていたそうですが、ケンカシの書道の授業を受けて、書道の面白さに目覚めたと教えてくれました。書道部の面白さについて、「単に真似して写すのではなく、どの書体にするのか、どのように書くのかを、自分で考え表現するところが魅力的。」と話してくれました。また、受賞しての感想としては、「率直にうれしい。」と笑顔で答えてくれました。

ケンカシは、学校として優良賞を受賞しました。



【中高生が作る新書 POP コンクール 入賞】

2年4組の洞毛結衣さんが、岩波ジュニア新書&ちくまプリマー新書合同企画「中高生が作る新書 POP コンクール」で入賞を果たしました。POPは、英語の Point Of Purchase（ポイント・オブ・パーチェス）の頭文字を取ったもので、ポップと呼ばれます。この本を読んでもらうための広告のようなものにとらえればよいでしょうか。

この企画の Web ページには、POP づくりのポイントとして、

- ・心に残った言葉を書いてみよう
- ・友だちに本を薦めるように書いてみよう
- ・イメージを絵にしてみよう（写真や切抜きなどもOK!）

と書かれていました。

洞毛さんのおすすめ本は『はじめて学ぶ生命倫理』（小林亜細津子著）です。

6000 件を超える応募件数だったとのこと。その中から選ばれたことは、本当に素晴らしいですね。彼女の作品を含めて、入賞した作品は、「中高生が作る新書 POP コンクール」Web ページで確認することができます。



卒業式

3月9日（月）に、普通科第48回、理数科第47回の卒業証書授与式を行いました。本来ならば、利根町会坂口会長様をはじめ、開かれた学校づくり委員の皆様をお迎えするべきところでしたが、新型コロナウイルスの拡大防止のため、卒業式への参加者を必要最小限の人数にとどめることとしました。そのため、来賓と在校生の参加を取りやめ、卒業生とその保護者及び教職員で行いました。また、「来賓祝辞」、「送辞」は印刷して配付するなど、時間短縮にも努めたところです。

卒業生代表による「卒業の言葉」では、3年間を通してのケンカシへの思い、親、職員への感謝、仲間に対する感謝・思いが、自分の言葉で語られていたため、とても説得力のあるメッセージとなっていました。涙する生徒・保護者も見られました。感動した職員も多かったことと思います。

卒業式が終わった後、職員からも、保護者の多くの皆様からも、「本当によい卒業式だった。保護者を参加させてくれてありがたかった。」との言葉が語られていました。



(校長式辞)

本日卒業される317名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんの晴れの門出をお祝いたします。本来であれば、在校生が、また、来賓の皆様が出席し、祝福するべきところですが、様々な事情で、それができませんでした。しかし、是非とも保護者の皆様には見ていただきたかった。保護者の皆様を迎えて、千葉県立柏高等学校令和元年度卒業証書授与式を挙げていくことは、教職員一同、誠に大きな喜びです。

保護者の皆様、今日までの3年間、様々なことがあったことと思います。健康面・学業面・進路選択など、多くの御苦労・御心配があったことと思います。しかし、それ以上に、喜びや幸せを感じた場面が多かったのではないのでしょうか。お子様が心身ともに大きく成長され、晴れて卒業式を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

私は、卒業生の皆さんとできるだけ関わりを持とうと努めてきました。この2年間、マイカメラを持参し、授業や行事における皆さんの様子を見せてもらいました。進路が内定した約七十名の生徒とは、12月、1月に校長室で話す機会を設け、「なぜそのような進路選択を行ったのか。」「将来はどのように考えているのか。」と問うと、しっかりと自分の考えを述べることのできる姿を見て、頼もしさを感じました。

「はやかったねえ。」。1月22日に行われた3学年集会における、学年主任の飯名先生のはじめの言葉です。とても実感がこもっていました。「3年間で本当に成長した。自信を持ってよい。」で締めくくられました。担任からもメッセージが送られていましたね。とても雰囲気の良い集会でした。皆さんにとって、ケンカシでの3年間は、どのようなものだったのでしょうか。

「健全で謙虚・誠実な人材の育成」という教育目標のもと、真摯に学び、部活動、行事にも熱心に取り組む、そして進路実現のために精一杯努力する。何に対しても精一杯取り組むという姿勢は、素晴らしいものと考えています。このよき伝統を、ケンカシらしさを明確にし、見事に在校生に引き継いでくれた皆さんに感謝したいと思います。

6月に行われた合唱コンクールに向けた練習、本番でのパフォーマンスはとてもすばらしかった。在校生も感動したことと思います。夏休み中に、校舎内をまわると、いつも、黎明祭の準備をしている三年生の姿がありました。私が話しかけると、作業を進めながら、いろいろと応えてくれましたね。本番でも、それぞれの分野の出し物は、クオリティーが高いものでした。何よりも充実感を持って、

楽しそうに取り組む姿がよいと思いました。体育祭の競技に取り組む姿は真剣そのものでしたし、応援団演舞は圧巻でした。また、閉会式後に皆で肩を組みながら校歌を歌う姿は、とても印象に残っています。最上級生として後輩を牽引してくれました。何事にも一生懸命に取り組む姿勢を、私は誇りに思っています。今年度の小学校算数教室に手を挙げた生徒は285名、千葉大学と県立高校5校で行う、新たなSSHにも、58名の生徒が参加するなど、ケンカシらしさは、後輩へと確実に受け継がれています。

ただ、皆さんが何事にも一生懸命取り組むことができた理由の一つとして、これまでいろいろな人の支えがあったことは、忘れないでほしいと思います。我々教職員が、皆さんと密接に関わり、支援していくことは当然のことです。職員は皆、ケンカシの生徒のことが大好きで、どうにかよい方向へと導きたいと考えている集団です。

そして、いつも何かあれば真っ先に相談に乗ってくれたのは家族ではなかったでしょうか。行事があれば、保護者の方は学校に足を運んでくれていました。体育祭に200名を超える保護者が集まってくれる学校は、あまり見られないと思います。ケンカシのPTA活動は積極的で、さまざまな形で学校に、生徒に関わりを持ってくれました。

「ケンカシのPTA活動はとても楽しかったなあ。卒業したくないなあ。」これは、ある保護者が語ってくれたものですが、PTA活動がいかに充実していたのかがうかがえます。いつも登下校の様子を温かい目で見守ってくれていた地域の皆様のことでも忘れないでほしいと思います。

卒業してからも、在校生のことを気に掛けてくれるのがケンカシ卒業生のよいところです。黎明祭には、毎年多くの卒業生が足を運んでくれます。今年度で11回を数えた、卒業生が自分の生き様を語るという「柏葉探究セミナー」では、シンガポールからの帰国をわざわざ一日早めてくれた先輩、盛岡から、京都から、静岡から、駆けつけてくれた先輩がいました。後輩たちのために、何を伝えたいのか、どのように伝えるのかを、真剣に考えてくれています。

さて、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新、Society5.0の到来など、社会環境・雇用環境が急速に変化することにより、将来を予測することが困難な時代にさしかかっています。しかし、皆さんならば、予測できない変化に主体的に向き合って、自らの可能性を十分に発揮し、よりよい社会づくりに貢献していけると信じています。なぜならば、皆さんはケンカシの生徒として、勉学、部活動、学校行事を通して、健全で、謙虚にして誠実な人間性を身に付けてきたからです。誰も見ていなくても正しいことを行う誠実さ、何事にも前向きに取り組む姿勢、これらは、これから社会に出たときに必要とされる大きな力です。

「不易と流行」という言葉があります。「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと」という意味です。ケンカシは、来年度、創立50周年を迎えます。よき伝統を守りながらも、新たな取組を行い、よりよい学校づくりを進めていきます。皆さんが卒業しても、ケンカシのことを気に掛けてくれるとありがたいです。

卒業生の皆さんの将来に幸多かれとお祈りし、式辞といたします。



4月7日（火）の入学式も、新入生とその保護者及び教職員で行う予定です。

サイエンス・カフェ

昼休みの時間を活用して、「サイエンス・カフェ」を行っています。

ケンカシは、SSH の取組を拡大し、県立船橋高等学校を幹事校として、県立の SSH 5 校（船橋、柏、佐倉、長生、木更津）と千葉大学でコンソーシアムを組み、優れた人材発掘とトップ人材の育成を目的とした科学技術人材育成重点枠（高大接続）「グローバルなプロジェクトを牽引する次世代型科学技術系リーダーの創出」に参加しており、今年度はケンカシ 1 年生 58 名が参加しています。

「サイエンス・カフェ」の対象は、この 58 名の生徒たちで、数日間かけて行いました。講師は、ALT のミアンさんです。生徒たちは、映し出された写真を見て、「わかること」や「感じたこと」を英語で発表していきます。「前の人たちが発表した内容は発表しないこと」というしぼりがあるため、あとにいけばいくほど厳しくなっていきます。ミアンさんが、「文法をあまり考えなくてよい。」と言ってくれたこともあってか、生徒は次々に発表してくれました。発表された内容を、ミアンさんが英文で入力し、前方のディスプレイに表示していきます。昼食を取りながら、とてもよい雰囲気です。このような活動に慣れることにより、英語力は着実に身に付くものと思います。

将来、国際社会で活躍する人材の育成を目指して、ケンカシでは特色ある活動を行っています。



課題研究発表会

2月20日（木）に「1・2 学年課題研究発表会」を行いました。

ケンカシでは、「探究し、伝える力」を重視した学校づくりを進めています。すでにお知らせしたとおり、このケンカシの取組は、千葉県教育委員会から「魅力ある県立学校づくり大賞」において優秀賞をいただくことができました。

ポスターセッション形式によるこの発表会では、普通科生徒が理数科生徒の発表を、理数科生徒が普通科生徒の発表を見ることができます。また、学年を越えて、1 年生が 2 年生の発表を、2 年生が 1 年生の発表を見ることができるというものです。

普通科 1 年生は「総合的な探究の時間」に行ってきたグループ研究した内容の発表です。普通科 2 年生は、沖縄修学旅行と絡めながら、「総合的な学習の時間」に探究学習を取り入れ研究してきた内容の発表です。理数科 1 年生は天津小湊野外実習報告を、理数科 2 年生は、理科や数学分野についての課題研究した内容の発表です。いずれも、単に調べ学習で終わることなく、探究的な活動に取り組んでおり、常に「なぜ」を考え、悩み、そして、もがくような経験をした人も少なくないことと思います。

1 年生、2 年生ともに、身振り・手振りをういながらの、聴衆を惹きつける発表であり、とても逞しさを感じたひとときでした。



ケンカシホームページ

ケンカシでは、学校の様子をホームページに掲載し、日々更新することにより、情報発信に努めています。（ケンカシホームページアドレス <https://cms1.chiba-c.ed.jp/kashiwa-h/>）